

平成 30 年度 奈良県知事賞

地方消費税の実態

橿原学院高等学校 二年 綿田 亮介

自分は、この作文を書く前に地方消費税というものは何かを知らずにいました。地方消費税というのは、ある県内で買い物をした時に発生してその支払った地方消費税は買い物をしたお店のある県への収入となります。例えば、奈良県で一万円の買い物をしたとします。現在の消費税は八パーセントでそのうちの一・七パーセントが地方消費税となります。つまり、消費税は八百円となり国の税金は六百三十円、地方消費税は百七十円です。そして、この百七十円が奈良県の収入となります。各都道府県は入ってきた地方消費税を使って道路や下水道の整備、医療や福祉の充実、小・中・高等学校教育、環境保護事業などの身近な行政にいかしていきます。

しかし、私の住む奈良県ではこの地方消費税の収入はあまりよくありません。かつて、地方消費税の納税がワースト一位になった時もありました。平成二十七年度の地方消費税の一人あたりの分配額は、奈良県では、全国平均を百とした場合、八十三・一パーセントでした。この結果は、全国ワースト三位でした。いかに地方消費税の納税率が悪いのか明らかです。こうなっている背景には、周辺の都市部への流入があるからだとは自分は考えています。奈良県は最近、電車などの交通の便が発達しているので、都市部への移動も容易になっています。私の家の近くに、何人も仕事で大阪に向かっていく人がたくさんいます。また、土曜日等に通学のために電車に乗った時、多くの方が大阪、または、京都や兵庫に向かうのを何度も見てきました。最初に書いた通り、その店で物を買おうと、その店のある県に地方消費税が入っていくので、今、挙げたような県で買うと奈良県にはもちろん収入が入りません。そうすると、身近な行政に良い影響を与えるどころか、悪影響を与えていくだろうと自分は思います。ですが、私も普段は奈良県で買い物をしますが、大阪や京都に行った時などは、たくさんお金を使ってしまう傾向があります。

今までは特に何も考えないで商品を買ってきましたが、今回この作文を書くにあたっていろいろな事を考えなければならぬと痛切に感じました。自分が払った地方消費税が実際に自分の使うような施設を建てたりするのにも使われているので、自分ももっと奈良県に貢献したいと思いました。そのためにも、なるべく奈良県内で買い物をするようにし、また、こういった実態が今本当に起こっていて深刻になっているということを親や友だち、また周辺の人にも伝えることで、協力して奈良県が発展していけるように努めていきたいと思いました。